令和元年７月１日

第 27 号

資料紹介　天保の飢饉と新潟町の窮民救済

～上大川前通　江口家文書より～

江口家文書は、江戸時代に新潟町で回船問屋を営んでいた当銀屋江口家に伝わる資料で、江戸中期から大正期まで、約1,400点もの資料があります。当銀屋は、江戸時代中期に与板から新潟へ出て来た商人で、醤油や味噌などの醸造業も行い、町政を取り仕切る検断などの町役人も務めていました。

掲載した資料は、天保８（1837）年、新潟町が当銀屋から金子を借用した際の証文です。差出人である北村又左衛門以下４名は、新潟町の検断を務めた人物で、新潟町はこの時、当銀屋から3,000両もの金子を借り入れました。証文中の「引宛（ひきあて）」とは、借金をする際の担保のことで、「蒲原御米（長岡藩年貢米）」や「高崎御米（高崎藩領米）」など計3,520俵もの米が担保となっています。

天保期は、初年からの天候不順に加え、相次ぐ天災により全国的に飢饉が発生していました。この影響で、全国から新潟へ米の買い付けが殺到し、米の値段が上昇しました。飯米を購入できない町民は困窮し、新潟町は救済のため米の安売りや炊き出しなどを行いましたが、蓄えていた積立金のほとんどを使い果たしてしまいました。この証文は、当時新潟町を支配していた、長岡藩の指示を受けて出されたものと考えられ、「町中撫育（ぶいく）のため手当借用いたし候」とあるように、窮民救済の財源確保が目的でした。

年貢米などを担保に借り受けた金子は、米の買い入れなどに利用されたと考えられます。新潟町の町民の救済には、当銀屋のような大問屋の存在が助けとなったのです。

借用申金子之事

一、金三千両也　　去申十月廿二日

此訳

金五百両也　　同十一月朔日

金五百六拾両也　　同同月十八日

金弐百両也　　同十二月十二日

金五百五拾両也　　同同月十四日

金四両三分

銀九分四厘

〆金千八百拾四両三分

銀九分四厘

此引宛蒲原御米弐千百俵横丁御蔵所江

預り置申候

金八百七拾四両　　去申十一月十一日

銀八匁八分壱厘

此引宛高崎御米千俵貴殿横丁蔵江入置候分

金三百拾壱両　　同同月十二日

銀七匁七分八厘

此引宛同古米四百弐拾俵貴殿横丁蔵江入置候分

〆金千百八拾五両ト

銀拾六匁五分六厘

但、利足之儀者、蔵敷共金百両前壱ケ月金壱両

弐朱ツヽ、来ル八月中迄追々返済之定

右之金子町中為撫育手当借用いたし候処

実正ニ御座候、然ル上者、期月無相違返済可致候

為後日、米引宛金子借用證文依如件

天保八酉年二月　　北村又左衛門㊞

長野津右衛門㊞

横山太郎兵衛㊞

松浦久兵衛㊞

江口善平殿

平成30年度事業概要

平成30年度も多くの方々のご協力を得て、資料の公開・保存などに関する事業を実施しました。概要を紹介します。

■資料の公開

歴史資料整備担当では、古文書等の複製資料や、図面・写真、行政刊行物などを公開しています。旧更正図・土地台帳は、横越公文書分類センター（江南区役所横越出張所３階）で公開しています。利用の際は、事前に歴史資料整備担当へご連絡ください。平成30年度の一般利用状況は次のとおりです。

区分	図 書	更正図	文 書	公文書	写 真	計
閲 覧	35	47	112	14	41	249
複 写	25	44	88	14	44	215
掲 載	0	0	11	2	35	48
計	60	91	211	30	120	512

（平成31年3月31日現在）

■資料の調査・収集

①歴史資料所在調査

市内の民間や組織が所蔵している歴史資料の現状確認調査を行っています。平成30年度は東区（１件）・中央区（３件）・南区（１件）・西区（３件）・西蒲区（１件）で調査しました。

②歴史公文書の引き継ぎ

市役所各課等の廃棄公文書の中から歴史的価値のある文書を選別し、歴史公文書として引き継いで保存しています。平成30年度は72点（紙文書38点、電子文書34点）、文書箱で14箱を引き継ぎました。

■資料の整理・保存

①歴史資料の整理

市へ寄贈された歴史資料の整理・目録作成を行っています。平成30年度の整理状況は次のとおりです。

文書群名	区分	点数	主な内容
東区海老ケ瀬　高橋家文書	寄贈	512	近世～現代地域資料
旧大和デパート増改築資料	寄贈	8	工事図面・写真
平本昇氏収集新潟地震写真	寄贈	95	新潟地震写真
秋葉区大安寺　坂口家文書	寄贈	608	近世～近代和本ほか
中央区古町通　吉野家文書	寄贈	9	漁夫手帳・ガラス乾板ほか
山内利秋氏収集新潟地震写真	寄贈	1	新潟地震写真アルバム
加藤功氏収集資料	寄贈	110	湊小学校旧蔵資料ほか

■歴史講座「古資料が語る新潟の歴史」の開催

９月１日・８日・29日に、新潟市万代市民会館で歴史講座「古資料が語る新潟の歴史」を開催し、多くの方々にご参加いただきました。

また、12月１日には、同じく新潟市万代市民会館で「開港地新潟を語る」と題して、特別講座を開催しました。各回の講義名と講師は次のとおりです。

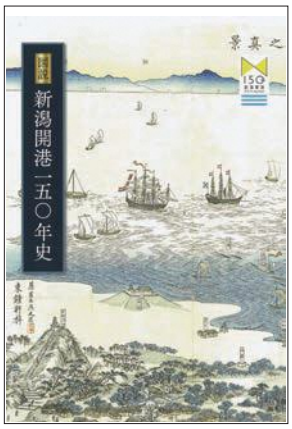
日　程（参加者数）	講義名	講　師
9/1（132名）	新潟築港と近代的港湾都市の形成	新潟大学 法学部准教授　稲吉　晃
	写真・地図・絵図でたどる新潟港のあゆみ	歴史文化課　小島成生
9/8（119名）	雑居地新潟と外国人	新潟県立近代美術館副館長　青柳正俊
	幕末維新期における新潟港の水深図を読む －「信濃川澪筋水戸迄測量絵図」とILE SADO ET CANAL DE NIEGATA－	歴史文化課　長谷川伸
9/29（121名）	近世から近代の新潟の回船問屋	新潟郷土史研究会理事　横木　剛
	「新潟表記録」にみる新潟奉行の異国船対策 －新発田藩への援兵依頼を事例として－	歴史文化課　高原雅美
12/1（180名）	廻船から汽船へ －明治前・中期の新潟港－	新潟市歴史博物館長　伊東祐之
	白山公園の歴史とその魅力	歴史文化課　小島真由美
	座談会「開港地新潟を語る」	

■「新潟市のあゆみ」講座の開催

平成27年度に発行した歴史パンフレット「新潟市のあゆみ」をテキストとする講座を開催しました。

平成30年度は７月29日に中央区（参加者93名）、２月23日に東区（参加者184名）で開催し、多くの方々にご参加いただきました。

■『図説　新潟開港150年史』の発行



2019年１月１日に、新潟市は開港150周年を迎えました。これを記念して『図説　新潟開港150年史』を発行しました。開港の経緯から現在までの新潟港と新潟市のあゆみについて、写真や図表等を掲載し、わかりやすく紹介しています（Ａ４判、128ページ、販売価格1200円）。

歴史文化課ほか市内各所で販売中です。詳しくは歴史文化課までお問い合わせください。

歴史的学校資料の保存と活用

１，現状と課題

新潟市内では少子化に伴う小学校や幼稚園の統廃合が増えています。各校園には歴史的な学校資料や校歴物品（以下、「歴史的学校資料」）が大切に保管されていますが、閉校や閉園（以下、「閉校」）に伴って大切な資料が散逸してしまうことが心配されています。

こうした問題を解決するため、歴史文化課では教育委員会事務局と連携し、歴史的学校資料の保存・活用を進めるための仕組みづくりを進めています。

２，歴史的学校資料保存の事例

平成29年度をもって、新潟市内の２つの市立学校園が閉校になりました。太田小学校（北区）と中之口幼稚園（西蒲区）です。歴史文化課では、貴重な資料の散逸を防ぐため、閉校にあたって廃棄予定の資料等の調査を行い、歴史的学校資料の保存を進めました。

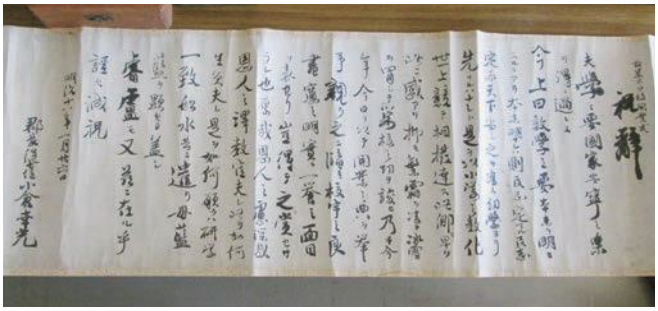
【事例１：旧太田小学校】

太田小学校の場合は、葛塚東小学校への編入統合による閉校でした。そのため、「学校沿革誌」や「卒業証書授与台帳」などの永年保存文書や、保存期間内の文書は葛塚東小学校へ引き継がれました。

歴史文化課では、それ以外の廃棄予定の文書や物品の中に歴史的価値があると認められる資料がないかを調べるため、閉校前の平成30年３月に選別作業を行いました。その結果、明治18（1885）年の開校式の際の祝辞や、大正から昭和初期にかけての卒業記念写真などが見つかりました。その後、地元の要望を考慮した上で歴史的学校資料として計356点の資料等を選定し、平成30年７月に歴史文化課に移管しました。

現在は、新津公文書分類センターに一時保管していますが、将来的には令和３年度に旧太田小学校校舎を利用して開館が予定されている（仮称）「新潟市文書館」へ移し、保存・公開する予定です。

豊栄市立学校時代の看板


北蒲原郡長の小倉幸光による、明治18年の太田小学校開校式の祝辞（小倉幸光は、明治22年から初代新潟市長を務めた人物でもある）

【事例２：旧中之口幼稚園】

中之口幼稚園は、市立中之口保育園と統合し、新設の中之口こども園としてスタートを切りました。

現在、幼稚園の関係資料は教育委員会教育総務課が管理しています。

このうち、「学校沿革誌」や「記念文集」などの歴史的価値の高い永年保存文書について、将来的に歴史文化課に移管して、（仮称）「新潟市文書館」で保存・公開することができないか、教育総務課と協議を進めています。

中之口幼稚園の永年保存文書の一部

３，今後について

廃棄する学校の公文書のうち、歴史的価値があると認められる資料については、「新潟市立学校文書取扱規程」第26条の規定により、教育総務課長と協議の上、歴史文化課長が引き継ぐことができることになっています。太田小学校の歴史的学校資料を歴史文化課に移管する事ができたのは、この規程が根拠となっています。

今後も、新潟市内では小学校や幼稚園の統廃合が計画されています。大切な歴史的学校資料の保存・活用を図るため、引き続き必要な仕組みづくりに取り組んでいきます。

●写真紹介●

新潟大火と柾谷小路の都市計画

写真１は、昭和10年代の礎町（鏡橋付近）から古町方面を見た柾谷小路です。柾谷小路は鏡橋付近が広く、古町方面は道が狭かったこと、戦前は通りの両側に木造建築が軒を連ねていたことがわかります。そもそも「小路」とは「通」を結ぶ横道のことで、柾谷小路は江戸時代の最初から新潟のメインストリート、というわけではなかったのです。

昭和30（1955）年10月１日、火災が医学町通二番町の県教育庁で発生し、台風の影響もあって、柾谷小路などの中心繁華街を焼き尽くす大火となりました**（写真２）**。そこで新潟市は県と共に建設省の指導の下、昭和27年に制定された耐火建築促進法による近代的な不燃都市防火市街地の建設をめざし、「新潟市火災復興土地区画整理事業」を行いました。これは、新潟市が災害復興をきっかけとして人口50万人都市の創造を想定し、火災焼失区域全体で都市の不燃化、街路交通体系の整備、防災機能の強化を断行したものでした。

その主な内容は、幅員27mの国道（柾谷小路）を主要幹線道路とし、東堀・西堀・他門川等を埋め立てて道路や緑地帯としました。柾谷小路を含む萬代橋から新潟小学校までの間は、道路両側11mが防火帯に指定され、新しく建てる建築物は耐火建築とされました。防火建築帯の造成は、市街地の景観整備を促進しました。

写真３は、新潟大火後の昭和30年代後半以降頃の柾谷小路です。歩道や道路を人々が行き交い、新潟交通の天然ガスのバスが走る、活気ある街の様子が窺えます。とりわけ柾谷小路の建物は、鉄筋・鉄骨コンクリート造りで、３階建て以上に高層化していることがわかります。柾谷小路商店街は復興目覚ましい区域の典型とされました。そして新潟市は３度目の大火から復興し、高度経済成長期の新しい都市再生に成功したのです。

写真1　昭和10年代の礎町（鏡橋付近）から見た柾谷小路

写真２　新潟大火で焼け尽くされた古町・柾谷小路

写真３　大火復興後の柾谷小路（昭和30年代後半以降）

市民の皆様へのお願い

歴史資料の所在調査を実施しています。江戸時代や明治～昭和期の文書・写真、戦中・戦後の記録などがありましたら、お知らせください。また、お持ちの古文書等の保存方法についての心配ごとがありましたら、歴史文化課までお知らせください。

編集・発行　新潟市文化スポーツ部
歴史文化課　歴史資料整備担当

〒951-8550　新潟市中央区学校町通１番町602番地１
（白山浦庁舎１号棟１階）
TEL 025-226-2584　FAX 025-230-0412
Eメール　rekishi@city.niigata.lg.jp